



東北大学

2009年2月10日

報道機関 各位

東北大学大学院生命科学研究科

『環境機関コンソーシアム』設立と設立記念国際シンポジウム
「気候変動と生態適応」のご案内

1. 『環境機関コンソーシアム』設立について

生き物やそれを取り巻く海や森の環境の存在は、これからの地球環境にどのような影響を及ぼすのでしょうか。また、どのようにそれを生かすことが、人や地球環境にとって有効で、大事なことなのでしょうか。

たとえば森林は気候緩和や、災害防止、水の浄化など、さまざまな恩恵をもたらしてくれるにもかかわらず、過剰な伐採あるいは放置により、急速に荒廃しつつあるのが現状です。人工的にこれらのサービスを提供しようとするれば、膨大なコストがかかるだけでなく、予期せぬ被害が発生する可能性もあります。そこで元来、生物とそれを取り巻く環境（生態系）が持っている適応力を活かした対策を講じようという研究が始まっています。

東北大学「生態適応グローバル COE*1」では、前述の内容を学際的に研究し実践する『環境機関コンソーシアム』を設立しました。コンソーシアムとは「研究するための協議、会議」のグループです。

これは公の研究機関、企業、自治体、NGOなどと連携し、立場が異なっても、情報を共有することによって、よりよい方向性を探っていこうというものです。社会人大学院生の受け入れや大学院生のインターシップなどを通し、研究と人材育成を図るとともに、人材交流を行うことで、その成果を社会に役立てます。『環境機関コンソーシアム』の設立を広く一般の方々にご紹介いただきたく、ご案内させていただきます。

2. 『環境機関コンソーシアム』設立記念国際シンポジウムについて

また、当グループでは2月19日（木）、仙台で国際シンポジウム「気候変動と生態適応」を開催いたします。来年の10月に名古屋市で予定されている「生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）*2」を視野にいれ、各国の状況の把握と課題の共有化を図ることを目的としています。翌2月20日には、エクスカーションとして、国指定天然記念物のマガンなど数多くの渡り鳥の越冬地で、ラムサール条約指定地になっている「伊豆沼」、冬の間も田に水を張ることにより、渡り鳥や水中の微生物の共生をうながす「冬水たんぼ」、そして、東北地方で環境活動に積極的に取り組んでいる企業の1つである「一ノ蔵」への見学を予定しております。併せてご紹介いただければ幸いです。

日時：2009年2月19日（木）13：00～17：30

場所：ホテルメトロポリタン仙台 4F

講演：武内 和彦（国連大学副学長）、Dr Stephen Geoffrey Willis (Durham University)他

パネルディスカッション：

ファシリテータ：足立 直樹（株式会社レスポンスアビリティ 代表取締役）

パネリスト：谷 達雄（株式会社リコー 理事/社会環境本部本部長）

鳥居 敏男（環境省自然環境局生物多様性センター センター長）

市田 則孝（国際環境 NGO バードライフ・インターナショナル 副会長）

中静 透（東北大学大学院生命科学研究科 教授）

シンポジウム詳細に関しましては、本リリース 3 枚目をご覧ください。

※1 COE：center of excellence（卓越した研究拠点）。国際競争力のある世界最高水準の研究教育拠点を形成し、研究水準の向上と世界をリードする創造的な人材育成を図るため、文部科学省が 2002（平成 14）年度より推進しているプログラム。現在、東北大学大学院生命科学研究科では生態適応 GCOE を含め、4 件が採択されている。

※2 生物多様性条約第 10 回締約国会議（COP10）：COP=Conference of the Parties。1993 年に発効した「生物多様性に関する条約」締結国が国際的な枠組みを策定する会議で、2010 年が第 10 回目。2008 年 7 月現在、締結している国と地域は 191 にのぼる。日本の締結は 1993 年 5 月。

（お問い合わせ・取材等のお申し込み先）

〒980-8578 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 6-3

東北大学生命科学研究科生態適応 GCOE

担当：竹本 徳子 特任教授，木島 真志 助教

電話番号：022-795-3637

「気候変動と生態適応」

温暖化や人間活動などの影響によって、生物の絶滅リスクの拡大、生物分布の移動、治山・治水能力の低下など、地球環境変化はもはや避けられず、今世紀には生態系が激変すると懸念されています。この対応には、従来の自然克服型の技術だけでは不十分であり、生物システムや生態系が本来持つ適応力を利用した対策が有効であり、社会的コストも軽減できる可能性があります。

東北大学では、こうした生態系管理を実現するため「生態系適応科学」を体系化し、その教育研究を行うことを目的とした事業として、平成20年度文部科学省より「生態適応グローバルCOE (Center of Excellence)」の採択を受けました。このGCOEの主な目的である環境人材育成の場として、また、社会ニーズの把握と研究成果の社会への還元の場として、『環境機関コンソーシアム』を創設します。今回はその設立記念シンポジウムとして、「気候変動と生態適応」について、エキスパートの方々に最新の知見を伺います。奮ってご参加ください。

平成21年 **2月19日(木)**

13:00～17:30

ホテルメトロポリタン仙台 4F
仙台市青葉区中央1-1-1 TEL.022-268-2525

入場無料

定員：申し込み先着 **100** 名

プログラム	13:00～13:10	ご挨拶 中静 透 (東北大学大学院生命科学研究科 教授)
	13:10～13:30	生態適応グローバルCOE「環境機関コンソーシアム」について 河田 雅圭 (東北大学大学院生命科学研究科 教授)
	13:30～14:00	「ミレニアム生態系評価とその後のサブグローバル評価のフォローアップについて」 武内 和彦 (国連大学副学長)
	14:00～14:30	「アフリカの現状と課題」 Dr. WILLIS (Durham University)
	14:30～15:00	「アジアの現状と課題」 Ms. MAMIIT-COBURN (ASEAN Centre for Biodiversity)
	15:00～15:30	「日本の現状と課題」 中静 透 (東北大学大学院生命科学研究科 教授)
	休 憩	
	15:50～17:30	パネルディスカッション ファシリテータ：足立 直樹 (株式会社レスポンスアビリティ 代表取締役) パネリスト：谷 達雄 (株式会社リコー 理事／社会環境本部本部長) 鳥居 敏男 (環境省自然環境局生物多様性センター センター長) 市田 則孝 (国際環境NGOバードライフ・インターナショナル副会長) 中静 透 (東北大学大学院生命科学研究科 教授)

「気候変動と生態適応」

2月19日(木)

13:00~17:30 **シンポジウム**

ホテルメトロポリタン仙台4F「千代東」

18:00~20:00 **懇親会**

ホテルメトロポリタン仙台21F「ラ・ボーヌ」

2月20日(金)

9:00~17:00(予定) **エクスカージョン**

ホテルメトロポリタン仙台出発(貸し切りバス)
ラムサール条約指定地・伊豆沼/
冬水たんぼ視察/昼食
一ノ蔵視察~仙台駅到着(17:00予定)

「環境機関コンソーシアム」発起人

国際環境NGOバードライフ・インターナショナル
副会長 市田 則孝(発起人代表)
株式会社レスポンスアビリティ 代表取締役 足立 直樹
NPO法人 アサザ基金 代表理事 飯島 博
サラヤ株式会社 代表取締役社長 更家 悠介
三井住友海上火災保険株式会社 取締役会長 秦 喜秋
国際NGO ナチュラル・ステップ・ジャパン 代表 高見 幸子
株式会社リコー 理事/社会環境本部本部長 谷 達雄
株式会社インターリスク総研 主任研究員 原口 真
株式会社一ノ蔵 代表取締役社長 松本 善文
国際自然保護連合日本委員会会長 吉田 正人

(50音順)

参加申込方法

お申し込みをご希望の方は、2月18日(水)までホームページ、<http://gema.biology.tohoku.ac.jp>に
登録していただくか、参加申込書に必要事項を記入して、FAX.022-795-3638にお送りください。

設立記念シンポジウム 参加申込書

ふりがな 氏名	メールアドレス
住所 〒	電話番号
	FAX番号
勤務先	電話番号

懇親会参加(会費2,000円)	参加	・	不参加
-----------------	----	---	-----

伊豆沼エクスカージョン参加(昼食代別)	参加	・	不参加
---------------------	----	---	-----



TOHOKU
UNIVERSITY

本件に関する問い合わせ先

「環境機関コンソーシアム」事務局

東北大学大学院 生命科学研究科
生態適応グローバルCOE支援室
〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉6-3
TEL: 022-795-3637 / FAX: 022-795-3638
e-mail: eco-gcoe@bureau.tohoku.ac.jp